

スクリーニングの手順

記載の有無
表紙に反映されます

あり

病院名: 和泉市立病院

期間: 平成26年9月1日現在

スクリーニングの項目、対象、方法、タイミング、スクリーニングした結果の確認者、スクリーニング結果の活用方法等についてご記載ください。

役職等に個人名が記載されていないことをご確認ください。

このシートに貼付することが難しい場合、ファイル名を別紙15とした電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

あり

(あり・なし)

ファイル形式

ワード

(ワード、一太郎、リッチテキスト、エクセル、パワーポイント、PDF、その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

スクリーニングのマニュアル

2015年2月5日

1. 緩和ケア外来受診

全人的な患者状態の把握

緩和ケア病棟についての説明し、同意書を頂く

2. 緩和ケア病棟の入院予約を行う

3. 緩和ケア入院時、看護師より STAS-J を使用し、患者評価を行う

STAS (Support Team Assessment Schedule)はホスピス・緩和ケアにおける評価尺度の1つです。主要項目として「痛みのコントロール」「症状が患者に及ぼす影響」「患者の不安」「家族の不安」「患者の病状認識」「家族の病状認識」「患者と家族のコミュニケーション」「医療専門職間のコミュニケーション」「患者・家族に対する医療専門職とのコミュニケーション」の9項目からなります。医師、看護師など医療専門職による「他者評価」という方法をとるため、患者さんに負担を与えないという利点があります(別紙参照)

4. 1週間後に必要時、評価を行い、多職種カンファレンスを持つ

(* 症状変化や環境変化などあれば、適宜)

カンファレンス後必要時、次回の評価日を決めておく

5. 退院日に再度評価し、外来に継続できるようにする

* 記録を必ず、残すようにする

STAS日本語版

記載者氏名: _____ 記入日時: _____ 年 月 日 記入開始時刻: 時 分

当てはまる番号に をつけてください。

1. 痛みのコントロール: 痛みが患者に及ぼす影響

- 0= なし
1= 時折の、または断続的な単一の痛みで、患者が今以上の治療を必要としない痛みである。
2= 中程度の痛み。時に調子の悪い日もある。痛みのため、病状からみると可能なはずの日常生活動作に支障をきたす。
3= しばしばひどい痛みがある。痛みによって日常生活動作や物事への集中力に著しく支障をきたす。
4= 持続的な耐えられない激しい痛み。他のことを考えることができない。

2. 症状が患者に及ぼす影響: 痛み以外の症状が患者に及ぼす影響

症状名

(_____)

- 0= なし
1= 時折の、または断続的な単一または複数の症状があるが、日常生活を普通に送っており、患者が今以上の治療を必要としない症状である。
2= 中等度の症状。時に調子の悪い日もある。病状からみると、可能なはずの日常生活動作に支障をきたすことがある。
3= たびたび強い症状がある。症状によって日常生活動作や物事への集中力に著しく支障をきたす。
4= 持続的な耐えられない激しい症状。他のことを考えることができない。

3. 患者の不安: 不安が患者に及ぼす影響

- 0= なし
1= 変化を気にしている。身体面や行動面に不安の兆候は見られない。集中力に影響はない。
2= 今後の変化や問題に対して張り詰めた気持ちで過ごしている。時々、身体面や行動面に不安の徴候が見られる。
3= しばしば不安に襲われる。身体面や行動面にその徴候が見られる。物事への集中力に著しく支障をきたす。
4= 持続的に不安や心配に強くとらわれている。他のことを考えることができない。

4. 家族の不安: 不安が家族に及ぼす影響

家族は患者に最も近い介護者とします。その方々は、両親であるのか、親戚、配偶者、友人であるのかコメント欄に明記して下さい。

注: 家族は時間の経過により変化する可能性があります。変化があった場合、コメント欄に記入して下さい。

コメント

(_____)

- 0= なし
1= 変化を気にしている。身体面や行動面に不安の徴候は見られない。集中力に影響はない。
2= 今後の変化や問題に対して張り詰めた気持ちで過ごしている。時々、身体面や行動面に不安の徴候が見られる。
3= しばしば不安に襲われる。身体面や行動面にその徴候が見られる。物事への集中力に著しく支障をきたす。
4= 持続的に不安や心配に強くとらわれている。他のことを考えることができない。

5. 患者の病状認識:患者自身の予後に対する理解

- 0= 予後について十分に認識している。
- 1= 予後を2倍まで長く、または短く見積もっている。
例えば、2 - 3ヶ月であろう予後を6ヶ月と考えている。
- 2= 回復すること、または長生きすることに自信が持てない。例えば「この病気で死ぬ人もいるので、私も 近々そうなるかもしれない」と思っている。
- 3= 非現実的に思っている。例えば、予後が3ヶ月しかない時に、1年後には普通の生活や仕事に復帰できると期待している。
- 4= 完全に回復すると期待している。

6. 家族の病状認識:家族の予後に対する理解

- 0= 予後について十分に理解している。
- 1= 予後を2倍まで長く、または短く見積もっている。
例えば、2 - 3ヶ月であろう予後を6ヶ月と考えている。
- 2= 回復すること、または長生きすることに自信が持てない。例えば「この病気で死ぬ人もいるので、本人も近々そうなるかも知れない」と思っている。
- 3= 非現実的に思っている。例えば、予後が3ヶ月しかない時に、1年後には普通の生活や仕事に復帰できると期待している。
- 4= 患者が完全に回復することを期待している。

7. 患者と家族とのコミュニケーション:患者と家族とのコミュニケーションの深さと率直さ

- 0= 率直かつ誠実なコミュニケーションが、言語的・非言語的になされている。
- 1= 時々、または家族の誰かと率直なコミュニケーションがなされている。
- 2= 状況を認識してはいるが、その事について話し合いがなされていない。患者も家族も現状に満足していない。あるいは、パートナーとは話し合っても、他の家族とは話し合っていない。
- 3= 状況認識が一致せずコミュニケーションがうまくいかないため、気を使いながら会話が行われている。
- 4= うわべだけのコミュニケーションがなされている。

8. 職種間のコミュニケーション:患者と家族の困難な問題についての、スタッフ間での情報交換の早さ、正確さ、充実度

関わっている人(職種)を明記してください

()

- 0= 詳細かつ正確な情報が関係スタッフ全員にその日のうちに伝えられる。
- 1= 主要スタッフ間では正確な情報伝達が行われる。その他のスタッフ間では、不正確な情報伝達や遅れが生じることがある。
- 2= 管理上の小さな変更は、伝達されない。重要な変更は、主要スタッフ間でも1日以上遅れて伝達される。
- 3= 重要な変更が数日から1週間遅れて伝達される。
例) 退院時の病棟から在宅担当医への申し送りなど。
- 4= 情報伝達がさらに遅れるか、全くない。他のどのようなスタッフがいつ訪ねているのかわからない。

9. 患者・家族に対する医療スタッフのコミュニケーション:患者や家族が求めた時に医療スタッフが提供する情報の充実度

- 0= すべての情報が提供されている。患者や家族は気兼ねなく尋ねることができる。
- 1= 情報は提供されているが、充分理解されてはいない。
- 2= 要求に応じて事実は伝えられるが、患者や家族はそれより多くの情報を望んでいる可能性がある。
- 3= 言い逃れをしたり、実際の状況や質問を避けたりする。
- 4= 質問への回答を避けたり、訪問を断る。正確な情報が与えられず、患者や家族を悩ませる

【特記事項】

評価できない項目は、理由に応じて以下の番号を書いてください。

- 7:入院直後や家族はいるが面会に来ないなど、情報が少ないため評価できない場合
- 8:家族がいないため、家族に関する項目を評価できない場合
- 9:認知状態の低下や深い鎮静により評価できない場合